

ひと呼吸



私たちの日常。それは多くの営みの連なりである。普段、それぞれの行為の意味を考えることは少ないが、ふと立ち止まって考えてみれば、そこには偶然と必然が潜んでいることに気づく。

呼吸。そのような自然な行為ですら、太古における偶然と必然の産物であったといえるかもしれない。この「ひと呼吸」が、手に取った人の日々の呼吸（營み）を見つめ直すきっかけとなり、そして、それが日常のなかでの「ひと呼吸（休息と起點）」になれば嬉しい。

Interviewer / Text Miyatani Masashi



宮谷 初めて藤原さんにお会いしたのは忘れもしませんが、人生初の出張のときでした。

藤原 そうでしたか、悪い人に会いましたね（笑）。

宮谷 やいや。名刺交換ですら緊張しているわけですが、藤原さんは話しかけやすく、良い意味で權威的じやないというか……そういう印象がありました。それは単に藤原さんの人のよさなのかもしれないですね。

藤原 まあ、そう言つてもらえるとすごく嬉しいですね。

宮谷 今日もぜひ色々話を聞かせてください。

宮谷 今日はぜひとも色々話を聞かせてください。

生きづらさのある人と社会との関係性を見る

藤原 関西大学（以下、関大）にきてから、もう10年ぐらいになるのかな。だだ、最初から障害学生支援の仕事をしていたわけではなくて、大学の使命の一つ、社会貢献の部分を担うコーディネーターを募集していく、縁あって大学と外部をつなぐ地域連携マネージャーとして大学で働くようになったのがスタート。

宮谷 具体的にはどういうことをされていたんですか？

藤原 地域課題を解決するために色々な大学の資源を活用したい自治体との橋渡しやね。

例えば、大学生のボランティアに来てほしいという地域の小・中学校と、募集に協力

藤原 地元の社会福祉協議会（以下、社協）²に採用されてそれから社会福祉士の資格を取って、そこで十数年地域福祉の仕事をしていました。社協を辞めてからは市町村の福祉計画作りをお手伝いしたり、主に精神障害者の地域生活を支援するNPOで相談支援事業にも携わっていました。ほかにも専門学校とか大学で社会福祉士とか精神保健福祉士の養成に携わらせてもらっていたかな。社協を辞めてから、他にも色々なことをしていましたね。

藤原 今このセンターでは主に身体障害が担当していることになっているけど、相談支援事業所にいたときは精神障害のある方の担当が多くたし、あくまで役割上って感じかな。昔から変わらずだけど、障害のある人たちが社会の偏見にさらされているっていうのはすごく感じていて、そういう意味でも障害といふよりは、生きづらさのある人と社会との関係性みたいなところをいつもみている気がすいんですね。

宮谷 特に国立大学で教員の立場で障害学生支援に携わっている人は、特定の障害種に関する心理や教育などの専門分野を持っている研究肌の方が多いですね。そこは大学の障害学生支援の現場とほかの福祉現場に比べても圧倒的に違うところ。別に良し悪しはない

宮谷 では、もともとは対学生ではなくて、対地域。

藤原 そうそう。それでしばらくしたら、関大で障害学生支援の部署を立ち上げようつていう動きになってきて、また縁が繋がって今このセンターの前身の立ち上げから関わらせてもらっています。

宮谷 立ち上げの当初はどんな感じだったんですか。

藤原 組織を立ち上げるときには色々な大学を見に行かせてもらいましたね。とにかく足を運んで話を聞いて、障害学生支援の枠組みについてのを教えてもらいました。ただ、コーディネーターがどんな動き方をするのかとか、どんな役割を果たすのかみたいなのは、どちらかというと、大学に務める前のキャリアとか自分が多いような気がします。

宮谷 大学の前のお仕事っていうのはどういうことをされていたんですか。

藤原 地元の社会福祉協議会（以下、社協）²に採用されてそれから社会福祉士の資格を取って、そこで十数年地域福祉の仕事をしていました。社協を辞めてからは市町村の福祉計画作りをお手伝いしたり、主に精神障害者の地域生活を支援するNPOで相談支援事業にも携わっていました。ほかにも専門学校とか大学で社会福祉士とか精神保健福祉士の養成に携わらせてもらっていたかな。社協を辞めてから、他にも色々なことをしていましたね。

藤原 今このセンターでは主に身体障害が担当していることになっているけど、相談支援事業所にいたときは精神障害のある方の担当が多くたし、あくまで役割上って感じかな。昔から変わらずだけど、障害のある人たちが社会の偏見にさらされているっていうのはすごく感じていて、そういう意味でも障害といふよりは、生きづらさのある人と社会との関係性みたいなところをいつもみている気がする。

宮谷 特に国立大学で教員の立場で障害学生支援に携わっている人は、特定の障害種に関する心理や教育などの専門分野を持っている研究肌の方が多いですね。そこは大学の障害学生支援の現場とほかの福祉現場に比べても圧倒的に違うところ。別に良し悪しはない

宮谷 今の話で一体いくつの仕事があつたんでしょう。今は身体障害のある学生の担当をされていますが、これまで必ずしも身体障害のある方とばかり関わっていたわけではありません。

宮谷 今このセンターでは主に身体障害が担当していることになっているけど、相談支援

事業所にいたときは精神障害のある方の担当が多くたし、あくまで役割上って感じかな。昔から変わらずだけど、障害のある人たちが社会の偏見にさらされているっていうのはすごく感じていて、そういう意味でも障害といふよりは、生きづらさのある人と社会との関係性みたいなところをいつもみている気がする。

宮谷 特に国立大学で教員の立場で障害学生支援に携わっている人は、特定の障害種に関する心理や教育などの専門分野を持っている研究肌の方が多いですね。そこは大学の障害学生支援の現場とほかの福祉現場に比べても圧倒的に違うところ。別に良し悪しはない

宮谷 もしかしたら僕たちがわからないことや悩むことは、僕たちが解決することじやないかも知れないですね。なかには「私が全部解決しなきや」って思われる方もいるかもしれないし、それは否定しないですが、ここは踏み込み過ぎないように自分の中で線を引いているところもあります。ただ、線を引いているとは言いつつも目の前の学生には、「こんなところもあるで」とか、「こういうところで話聞いたことがある?」とか結局言つてしまっていますね（笑）。

宮谷 もしかしたら僕たちがわからないことや悩むことは、僕たちが解決することじやないかも知れないですね。なかには「私が全部解決しなきや」って思われる方もいるかも

は僕が解決するけど、その二一ズだつたら

こつちに行けばいいんじやない? と言うこ

とができるのも、コーディネーターの大重要な要素の一つなんでしょうね。いずれにしても

僕たちが対応できることがそのまま彼らの選択肢になつてはいけないんだろうなと思いま

す。

藤原 情報提供はできるけど、最終的にチヨ

イスするのは学生本人。ただ、そうやって一

つひとつ選択をしてきた経験が乏しい学生

もいるので、カードを並べてどれにする?

ではなくて、それをするとどうなるかとか、

必要なことをちゃんと相手にわかる言葉で伝

えるというのはすごく大事やね。

支援を回すエネルギー

宮谷 藤原さんは着任1年目から今まで「コーディネーター」の肩書でずっとこれているかと思うんですけども、最初の頃と今とでは何か変わっていますか？ 例えば学生との関わり方とか。

藤原 今が適切かどうかは別にして、以前よりも距離感がうまく取れるようになつてている



藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県
協「地域福祉推進ビジョン策定委員会」「市町域の権利擁護活動のあり方検討委員会」「福祉教育推進委員会」等の委員を歴任。また、兵庫県内における災害時要援護者救援マップ等の作成を支援する。2011年10月から関西大学の障害学生支援部門立ち上げにかかり、今に至っている。

藤原 隆宏・ふじわらたかひろ
関西大学 学生相談・支援センター
コーディネーター（社会福祉士）
佛教大学 社会福祉学研究科修士課程修了。
大学卒業後 民間企業を経て
地域福祉の推進に力を注ぐ。兵庫県<br

かなと思います。やっぱり初期は障害学生に

も支援学生にも、距離が近かったかな。それ

はそれでよかった部分もあるんやけど、今は

少し肩の力を抜いてやれるような感じ。今思

うと、初期は結果を求めるというか、こちら

の関わりによって障害学生や支援学生が変化

することとか、何か成果を生むとか、何か少

しでも目に見える形にしたいっていうのが

あつたかなと思います。

宮谷 それが少しづつ落ちていたと。

藤原 そうやね。待てるというか、良い距離

感を保てるようになつたかなとは思いますね。

宮谷 我々コーディネーターの仕事つて、そ

うした直接的な学生支援だけではなくたくさん

あるかと思いますが、藤原さんはどのように

整理されていますか。

藤原 シンプルにいうと障害学生の修学上の

ニーズがあつて、そこに合理的配慮の必要が

あつて、そのためのコーディネートをする。

支援が動き出したら、モニタリングをして評

価をするっていうサイクルをぐるぐる回して

いくことが中心にあると。それで、そのサイ

クルを回していくうとするとそこに関わる教

員や大学関係者にも理解啓発していかないと

あかんよねとか、支援に関わる学生には一定

の知識や技術を持つてもらいたいよねってい

うことで、研修もしていくつていう。中心の

サイクルを回していくために、周りへもいろ

いろな働きかけが必要なのかなと。僕はそん

な整理です。

宮谷 それでは理解、啓発が先にきちゃうつ

ていうのは順序的にはおかしな話つていうこ

となんですよね？ まず目の前の修学支援を

丁寧にしながら、少しずつ広げていく。

藤原 例えば障害者理解を促進する、といつ

たときに10回研修するより、1回ケースに関

わるほうが絶対理解は深まるよね。だから、

一つひとつのケースを丁寧に。些細な話やけ

ど、メールより電話、電話より顔を見て、み

いし、それから考えたらえんちやうつてい
う。それは自分の生き方がそんな感じやから
(笑)。

ひと呼吸がいらない
充実した「活動」

宮谷 「ひと呼吸」っていうこのテーマに沿つ
て、毎回皆さんがどんな「ひと呼吸」をされ
ているのかを聞いています。藤原さんは何か
趣味とかあるんですか。さつきサッカーの話
は出ていましたけども。

藤原 えー、なんだろ。それこそ何年か前
までは協会役員なんかもしてたので週末は
サッカー漬けでしたね。最近は指導からは少
し距離をおいて、土日は料理作ったりとか。
僕が生まれ育つて今も住んでいる町は本当に
小さな町で、合併もあつたけどもともと人口
7000人から8000人ぐらい。田舎やか
ら、季節になるとキヤベツとかハクサイとか
ダイコンとかつていっぱいもらつてくんねん。
これをどうやって調理するかを考えるのが
むづちや楽しみ。そんなにしょっちゅうする
わけじゃないけど。ただ、今の業務から離れ
て何か息抜きをしないと精神的にもたへんみ
たいな感じはないかな。

宮谷 ひと呼吸がいらないってことですか？

藤原 賢沢な話やけど、仕事というよりは活
動をしてる、みたいな印象がすごく強くて。

社協時代からそうやねんけど「事業をする」
とか「仕事をする」っていうんじゃなくて、

地域住民、民生委員、児童委員、
社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の参加、
協力のもと、地域の人びとが住
み慣れたまちで安心して生活す
ることのできる「福祉のまちづ
くり」の実現をめざしたさまざま
な活動を行っている。

1 関西大学学生相談・支援セン
タ
2 社会福祉協議会
民間の社会福祉活動を推進する
ことを目的とした常利を目的と
しない民間組織。各自治体で、
地域住民、民生委員、児童委員、
社会福祉施設、社会福祉法人等
の社会福祉関係者、保健・医
療・教育など関係機関の参加、
協力のもと、地域の人びとが住
み慣れたまちで安心して生活す
ることのできる「福祉のまちづ
くり」の実現をめざしたさまざま
な活動を行っている。

1 関西大学学生相談・支援セン
タ
2 2013年に設立。「総合相談
窓口」と「障がいのある学生に
対する修学支援」の2つの機能
を持つている。



たいなことを積み重ねると、少しづつ、本當に少しづつやけど、でも少なくともそこに関わった人たちは実感を持って理解してもらえ
るかなって。

宮谷 藤原さんはやっぽり福祉現場での経験
があるからなのかな。現場で起きていること
をすごく大事にされているんだなって端々に
を感じますね。特に今の「実感」っていう表現
は印象的でした。支援のサイクルを回すエネ
ルギーって、知識やノウハウ、お金、理解啓
発とかキーワードはいくつかあるかなと思う
んですけど、とても大事にされている部分なんですね。でも、い？っていう。実感がエネルギーになるつて
いうのは対学生にはもちろんでしょうけど、
支援に携わる学生、大学組織に対しても、と
いうのは一貫していて。藤原さんのポリシー

とまで言つていいかわからないんですけど、と
ても大事にされている部分なんですね。でも、

実感つてすごく水物ですよね。結局、人に
よつても響き方も変わるだろうし、同じこと
をやつっていても多分AさんとBさんではその
効果なんて全然違います。

藤原 だから実感を共有するシチュエーショ
ンを作るためにも、実際にその場に支援を必
要としている障害学生がいることを見せるこ
とも大事かなと思つていて。それは社協で実
践している頃から大事にしていた部分で、支
援を必要とする人と支援をする人、そしてそ
の周りの人たちがいかに同じ場をともにして、
彼らの存在にリアリティを感じられるかつて
いうこと。だから、実際に障害学生が来て、
話をするだけで理解の度合いは全然違う。そ
こも僕はもう一つのコーディネーターの役割
かなと思つていて、自分の中ではずっと大事
にしているところですね。

宮谷 実感がないと支援はもとより、考える
べきかけもなかなかですし、より良い支
援を考えていくときも先に進まないですよね。

藤原 あんまり先の話はしないかな。ただ、
すごく期待を込めてというか、大学の間に
色々なことをできるようになるといいね、み
たいなメッセージは割と伝えています。

宮谷 面白いですね。先の話はあんまりしな
いっていう。親御さんもそうかもしれないで
すけど、結構先の話をみんなしたがると思う
んです。この子の将来のためにみたいな。

藤原 自分がそうやけど、人に言われても自
分が経験していないとわからへん。だからまあ、
例えば失敗してもいいし壁にぶつかつたらい



話す機会もできるだけ作るようになっている。
そうしたら、ある学生が四年生ぐらいになつ
た「みたいなことを言われて、ああ、そういう
効果もあんねんなみたいな。最初からそれ
を狙っていたわけじゃないけど。これつ
てやっぽり大学の面白さよね。4年間関わっ
て、学生が成長して卒業していく、また新た
な学生が入ってきてつていうこの繰り返し。
宮谷 そう言えるのは藤原さんがこの仕事に
向いてるから……なんでしようか。また一からつ
て、学生が成長して卒業していく、また新た
な学生が入ってきてつていうこの繰り返し。
宮谷 そうじやないですか、また一からつて
てしんどいじやないですか、また一からつて
て、学生が成長して卒業していく、また新た
な学生が入ってきてつていうこの繰り返し。
宮谷 なるほど(笑)。成長はショートカッ
きと一緒にやな。30年近く、地域の子どもたち
にサッカーを教えてるんやけど、一年生で
クラブに入つたばかりのボールも蹴られへん
子が6年間経つてすごく上手になつて次のス
テージへつていう、これを繰り返していく面
白さと共にしていると思うわ。

藤原 そうか。それは、サッカーを教えると
話せつて言われるから、パッと振られてもま
とまつて自分のことを話せるようになります。
そうしたら、ある学生が四年生ぐらいになつ
て、「いつも藤原さんに自分のことを話せ、
てやっぽり大学の面白さよね。4年間関わっ
て、学生が成長して卒業していく、また新た
な学生が入ってきてつていうこの繰り返し。
宮谷 そうじやないですか、また一からつて
てしんどいじやないですか、また一からつて
て、学生が成長して卒業していく、また新た
な学生が入ってきてつていうこの繰り返し。
宮谷 なるほど(笑)。成長はショートカッ
きと一緒にやな。30年近く、地域の子どもたち
にサッカーを教えてるんやけど、一年生で
クラブに入つたばかりのボールも蹴られへん
子が6年間経つてすごく上手になつて次のス
テージへつていう、これを繰り返していく面
白さと共にしていると思うわ。

Editor's Note

インタビューから垣間見えるかもしませんが、普段から藤原さんとは頼れる兄貴分として仲良くさせてもらっています（私を弟分と思っているかはわかりませんが）。その飾らない雰囲気で私自身すっかり油断していますが、藤原さんは関西地域の障害学生支援コミュニティを作り上げてきた一人であり、2019年のAHEAD 第5回大会でも「コーディネーターのプロフェッショナルスタンダード」に関する分科会の話題提供者としてご登壇されているほどのベテランです。

今回校正してみて驚いたのは、注釈がなんとも少ないこと。藤原さんから語られるお話の一つひとつがまさにご自身の経験に裏打ちされた一貫したストーリーで、内容がストンと落ちていきました。藤原さんとはこれまでさまざまな協議会やシンポジウム、情報交換会で一緒にすることはありましたが、どうしても近況報告で終わるということも多く、今回初めてその深いところをお聞きすることができました。皆様も「ひと呼吸」を片手に、同僚の方々、お知り合いの方々とぜひさまざまなことを語り合ってください。次はどんな方のお話を聞けるのか、それを考えるだけでワクワクしてしまいます。

（宮谷祐史）

Concept

障害のある学生が高等教育にアクセスする権利を保障するための取り組みである「障害学生支援」には、その主人公である学生と対話し、ともに行動してきた多くの実践者たちの存在があります。こうした実践者一人ひとりには独自のバックグラウンドがあり、またそれぞれの考え方や想いをもって形作ってきた歴史があります。

私たちは、これらの「人」によって蓄積されてきた考え方やその想いを知ることが、これから障害学生支援を考えていく上で貴重な機会となり、この分野の魅力を知ることにつながると考え、この『ひと呼吸』を発行することにしました。ここに綴られているのは、私たちを含めた一人ひとりの関係者にむけた応援のメッセージです。

ひと呼吸・編集委員会（HEAP×Kyoto Univ.DSO）

村田淳、船越高樹、宮谷祐史、木谷恵

HEAP：高等教育アクセシビリティプラットフォーム

Kyoto Univ.DSO：京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム

発行／高等教育アクセシビリティプラットフォーム（HEAP）

Address 京都市左京区吉田本町

京都大学学生総合支援センター内

Web <https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/platform/>

Mail d-support-pfm@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Tel 075-753-5707